



Application

カンキツ類DNAのRAPD※法によるジェノタイピング

製品名

KAPATaqEXtra

メーカー名

KAPA BIOSYSTEMS 社

下記データは、京都大学院農学研究科 中野 道治様のご厚意により掲載させていただきました。

実験条件

下記の条件で、PCR用試薬の比較をしました。

●PCR用試薬

T社製品
KAPATaqEXtra

●テンプレート

カンキツ類の葉からDNAをCTAB法で抽出し、使用しました。

●PCR組成

組成	終濃度	
Water	5.1μL	
5×KAPA buffer	2	1×
MgCl ₂	1	2.5mM
dNTP	0.3	各0.3mM
プライマー (片側)*	1	1μM
KAPA Taq EXtra	0.1	0.5unit/10μL
DNA(5ng/μL)	0.5	2.5ng/10μL

※プライマー：10～12mer 3種 10μL

●PCRサイクル条件

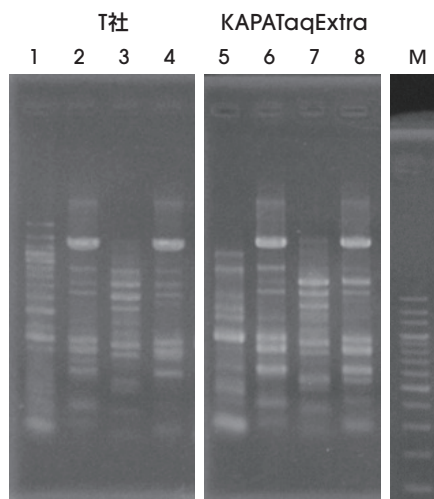
94℃	2min	} ×35サイクル
94℃	30sec	
40℃	15sec	
68℃	30sec	
72℃	3 min	
4℃	Hold	

●使用したPCR装置：PCR9700 (ABI)

●泳動条件

アガロース濃度：2% (TAE)
電圧、時間：100V 40min
サンプルアプライ量：5μL

結果



Lane	Taq	MgCl ₂	プライマー
1	T社製品	Premix	A
2	T社製品	Premix	B
3	T社製品	Premix	C
4	T社製品	Premix	B+C(Each 0.5uL)
5	KAPA Taq	2.5mM	A
6	KAPA Taq	2.5mM	B
7	KAPA Taq	2.5mM	C
8	KAPA Taq	2.5mM	B+C(Each 0.5uL)

KAPATaqEXtraにおいても多数のバンドが得られ、本酵素がRAPD反応に使用可能であることが示されました。



お客様のコメント

KAPATaqEXtraは、植物 (カンキツ) DNAを用いたRAPD法に問題なく使用でき、T社の代替えになると考えられた。